

個別事業(取組)評価

事業No.	12	施策の柱への位置付け	柱② 教員指導力改革	
事業名称	小中学校理科観察・実験基礎講座Ⅰ・Ⅱ		担当課	教育センター
			当初予算額(千円)	715
			補正後予算額(千円)	795
			決算額(千円)	794

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 ◆ 平成21年度小中学校課調査「理科アンケート」より、児童生徒は実験・観察を好む傾向にあるが、教員は児童生徒の理科離れを感じている。 ※ 活動に対する児童生徒の肯定的な回答の割合 「理科室や教室での実験」⇒小学校:89.0%、中学校:83.0% 「動物や植物の観察」⇒小学校:72.8%、中学校:67.4% ※ 児童生徒の理科離れを感じる教師の割合 小学校:61.5%、中学校:65.0% ◆ 小学校教員は中学校教員に比べ実験・観察の際、「実験器具や機器の扱い方」(21.3%)、「薬品の扱い方」(12.8%)に困難を感じている。 ◆ 学習指導要領改訂により指導内容が追加され、基本的な観察・実験の技能・指導力が必要となっている。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 平成21年度小中学校課調査「理科アンケート」から特定している。 ◆ 学習指導要領における授業時間数が増加している。 小学校 350→405時間(55時間増) 追加内容:発電・蓄電、月・太陽の位置等 中学校 290→385時間(95時間増) 追加内容:水溶液とイオン、月の運動と見え方等
		【要因】 小学校教員は、理科実験に関する専門的な知識不足や安全面での不安を感じている。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 平成21年度小中学校課調査「理科アンケート」から特定している。
②	目標(Outcome)	◆ 理科の観察・実験の指導に関する教員の基礎的な技能及び指導力を向上させる。 ・ 当日アンケート 研修の満足度平均3.5以上(4段階評価) ・ 事後アンケート(4段階評価) 他の教職員との共有 平均3.0以上 理科の指導での活用 平均3.0以上 取扱いや安全面への効果(記述内容からの分析)	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 研修による技能・指導力の向上を検証する指標として、事後アンケートの結果を活用した。
		【検証(比較)方法】 ◆ 研修会当日アンケート(2回)及び研修3ヶ月後のアンケート(2回)調査結果を分析 ・ 研修内容の授業での活用状況 ・ 所属校教職員での情報共有度 ・ 理科指導の課題、取扱いや安全面等の研修効果	エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 当日アンケート(4段階評価) ・ 研修の満足度 平均3.5 ◆ 事後(研修3か月後)のアンケート(4段階評価) ・ 他の教職員との共有 平均3.2 ・ 理科の指導での活用 平均3.0 ◆ アンケートの自由記述欄には、約4割の受講者から「薬品庫や理科室の整理・改善をした」もしくは「安全面の指導を意識している」との記載があった。
③	実施内容(Input・Output)	◆ 小学校3～6学年担任(各校1名悉皆)、中学校理科担当教員(任意参加)、新規採用教員を対象に各教育事務所及び高知市の4地区に分かれて2日間実施 ・ 小中学校の教科書の観察・実験を中心にした実習 ・ 薬品の取扱いと実験終了後の薬品処理、後片付けなど授業実施後に必要なスキルのための講義・実習	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 小・中学校観察・実験基礎講座Ⅰ ・ 実施日 7/26(東部)、8/1・5(中部)、8/8(西部)、8/10(高知市) ・ 内容 理科室経営、薬品処理の取扱い 生物領域「顕微鏡の使い方」、地学領域「月の満ち欠け」 ◆ 小・中学校観察・実験基礎講座Ⅱ ・ 実施日 11/17(東部)、12/1・8(中部)、11/24(西部)、11/18(高知市) ・ 内容 物理領域「手回し発電機とコンデンサー」 化学領域「ものの溶け方」 ◆ 参加者数 225名
総合評価と今後の方向		目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/> 【総合評価】 ◆ 研修を通して、小学校教員の基礎的なスキルが高まり、理科の指導に対する不安感が緩和された。 ◆ 小学校理科の基礎的事項に焦点を当てたことから、中学校の希望参加が12名と少なかった。今後は中学校への対応を検討していく必要がある。	【今後の方向】 ◆ 中学校教員のニーズに応えるため、研修を小学校と別日程として開催する。また、中学校の受講対象者を各学校1名悉皆とし、観察・実験における思考力・判断力・表現力の育成を図る内容を取り入れる。 ◆ 学力・学習状況調査の結果及び理科思考力問題集の記載内容を踏まえ、研修内容に盛り込むことを検討する。